

茶ぐわく ゆんたく



お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？

熱気につつまれた宜野湾の闘牛

今年度は、「娯楽」をテーマに全6回のコラムをお届けしたいと思います！

今回は、戦前から庶民の人気があり、「ウシオーラセー」という呼称で知られる闘牛を紹介いたします。かつて、宜野湾村内の多くの旧集落には「ウシナー」または「ウシモー」と呼ばれた闘牛場がありました。一方、闘牛場が無い集落では、近隣の地域と組合を作つて闘牛場を運営したり、周辺地域の闘牛場を借りて闘牛を行うほどの人気ぶりでした。



▲暑い中、勝負を見守る観衆はバサージン(芭蕉布の着物)、ムンジユル笠、パナマ帽を身に着けている。

宜野湾で闘牛が始まった時期は定かではありませんが、農作物の育成状況等の優劣を競う「原山勝負」という行事に行われるようになったそうです。

昭和の初期ごろまでは、勝負の最中に一方の牛が舌を出したら負け判定となり、相手を傷つける前に勝負を決していました。しかし、1941(昭和16)年ごろからは観客から入場料を徴収するようになり、一方の牛が降参するまで勝負を続けるカッシン(合戦)が行われるようになりました。そして、勝負に勝つためには牛を強くする必要がありますため、体作りトレーニングはもちろん、日々の食事面でも牧草やキビの葉を与え、勝負が近づくと食事の量を調整しながら卵や豆腐を混ぜた米を与えるなどの気遣いもあつたようです。そして、実際の勝負に勝つと、勝った牛の主やその親戚・知人たちは歓喜に沸いてウシナーに飛び出し、カチャーシーを踊ったりする光景もよく見られました。



▲カチャーシーを踊る勝った牛の関係者たち(愛知) 1961(昭和36)年

また、戦前までは闘牛が行われる日には、会場の近くにイージユ(現在の浦添市伊祖)から天ぷら売りがやって来て、その場で天ぷらを作つて販売をしていました。その他にもタンナフアークルーやカーブチーなども売られており、観衆にとつては闘牛を観戦しつつも、これらを食べることも楽しみの一つだったかもしれません。

このように、各地で盛んに行われてきた闘牛は、戦後も続けられ、一時期は「はごろも祭り」の前夜祭などでも開催されていきました。現在では市内での開催はなくなりまし。しかし、一部の闘牛場は普天間飛行場内で残つていたり、愛知区の「まつぼっくり公園」内で広場としてその名残があります。

はくぶつかん情報

宜野湾市立博物館 春の企画展

「島の時間 ～新城征孝絵画展～」

沖縄県内の風景を中心に制作活動を行っている新城征孝氏の作品を紹介します。

キャンバスの中に見える、郷土のゆつたりとした時間を感じてみませんか？

▼期 間 4月18日(土)～5月31日(日)

※GW期間中の開館については、当館ホームページをご覧ください。

▼場 所 市立博物館 企画展示室

▼料 金 無料

博物館市民講座受講生募集！

「島の時間 ～新城征孝氏によるギャラリートーク～」

企画展「島の時間 ～新城征孝絵画展～」に関連して、新城氏による展示された絵画一つ一つの想いを語ります。

▼日 時 4月19日(日) 14時～15時(受付13時半)

▼場 所 市立博物館 企画展示室

▼講 師 新城征孝氏

▼定 員 30人程度(当日先着順)

▼参加費 無料

博物館市民講座

「リュウキュウツミの観察会」

ロビー展「リュウキュウツミの成長2026」の関連講座。「リュウキュウツミ」を森川公園にて解説を交えながら観察します。

▼日 時 6月6日(土) 10時～12時(受付9時半)

▼場 所 市立博物館ロビー・森川公園

▼講 師 宮城 邦治(沖縄国際大学 名誉教授)

▼定 員 飯沼 慶一(学習院大学 教授)

▼参加費 25人(先着順)

▼申込期間 5月16日(土)～6月5日(金) 9時～17時

※定員に達し次第締切

▼問 市立博物館 ☎870-0317

※休館日：火曜日・祝日

※開 館：9時～17時

(最終入館は16時半まで)